

○2024年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書【報告会用】

団体名：株式会社 k-Hack

事業名：北大通謎解きクイズラリー

事業費：934,600 円

輝くまちづくり交付金の交付金額：250,000 円

1 事業目的と事業内容

公民問わず、様々取り組んでいるが、釧路市内で体験できる子供向けのアクティビティはまだまだ少ない。

釧路中心部である北大通は、公共交通機関で移動するシニア層の往来はある程度あるが、子供及び子育て世代の若い世代が来ることがなく、中心市街地活性化の課題となっている。

釧路市内で子供向けのアクティビティが少ないことと、釧路市中心部北大通の活性化の課題に同時にアプローチする親子など全世代向けのクイズラリーを実施した。

北大通の商店・施設をめぐり、各チェックポイントに設けられたクイズを解いてゴールに辿り着けば抽選（外れなし）で景品を獲得するアクティビティ。

数独®を作るパズル会社に問題作成を委託し、日本トップレベルのクイズコンテンツを活用することで、これまでにないクオリティの体験コンテンツを市民に提供できると考えた。

2 事業の達成状況と今後の課題

200 名の子供とその親 300 名以上の北大通への来訪を掲げたが、実施2日間のうち2日目の天候悪化により1時間早く終了したものの、ほぼ計画通りの487名の参加者を達成した。高校生以下は214名。アンケート5段階評価で、「とても楽しい」・「楽しい」の上位2評価で92.2%と想像以上の高評価を得た。毎年実施して欲しいとの声も多かった。

開催日当日に参加飲食店及び洋菓子店での購入も発生し参加店舗からの評価も高かった。

来年度も実施で考えているが、費用の圧縮が課題。また、今回集客面から港まつりの協賛事業にしたが、港まつりのメイン会場が耐震岸壁だったことから集客効果は限定的だった。中心市街地活性化のため北大通での開催復活に向けて、北大通に事務所を構える k-Hack としてできることを実施していきたい。

○2024年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書【報告会用】

団体名：特定非営利活動法人まなざしの和

事業名：美原から釧路活性化プロジェクト

事業費：643,222円

輝くまちづくり交付金の交付金額：100,000円

1 事業目的と事業内容

釧路管内ならび道東の食品産業を通じて釧路（道東）の生産者、加工者、作家、地域の学生、地域住民が連携し「地域の食文化と産業の多様性、新たな学びの試み」を目的としたイベント、災害時の訓練を開催し美原の良さと安全性を広く知ってもらい釧路、美原が共に未来に繋がる持続可能な地域経済発展に貢献することを目的とする。

事業内容

- ・釧路みはらマルシェ 魚・野菜・加工品のミニ市場を開く
- ・釧路みはらフェス 子供から高齢者まで楽しめるイベント
- ・釧路みはらdeサバイバル 地域として防災力を高める活動

2 事業の達成状況と今後の課題

美原から釧路活性化プロジェクトとして2024年9月7日に地域で防災力を高める活動「釧路みはらdeサバイバル」を行いました。

活動を通じて、地域住民同士や各団体、教育現場との連携も強化され、災害時に備えたつながりづくりを構築する事が出来ました。

2024年10月12日に開催した釧路みはらマルシェ・釧路みはらフェスでは、目標来場者200人を大きく上回り500人以上の方に来場者していただくことが出来ました。その半数は、美原地域以外から訪れてくれた方ということもあり釧路、釧路周辺の食の魅力はもとより美原地域の魅力をも広く発信し地域内外の交流促進や地元経済の活性化に貢献することができました。

今回の経験から今後、来場者の増加に伴う運営体制の強化、地域外の参加者が継続的に来場、参加してくれる楽しい仕組みづくりが必要と考えています。

来年度に向け、防災や地域活性化による美原地域の活性化そして釧路市全体の活力向上に向けた取り組みを進めていきたいと思っております。

○2024 年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書【報告会用】

団体名：幼い子どもたちのためのコンサート実行委員会

事業名：0 歳からのファミリーコンサート～垣根を越えて～

事業費：50 万円

輝くまちづくり交付金の交付金額：20 万円

1 事業目的と事業内容

2018 年から取り組んできた研究課題、「**保育者を目指す学生の大きな学びの機会**」と、「**これから育っていく幼い子どもたちの情操教育の場**」「**かけがえのない家族の時間**」また、「**年代を越え、障がい者など様々な人や団体との多様な交流**」を通して、心豊かなこどもの育ちの場を広げ、家族の思い出を残し、繋げていくことができるようにという事を、目的とした。

- ① 情操教育＝生の演奏に触れて、子どもたちの感動体験創出
- ② 連携（子どもたち・子育てに関わる人やお年寄りまで、さらに障がい福祉団体との多様な交流）
- ③ 乳幼児が入場制限せずにコンサート参加可能として、子育て家庭と子どもたちが感動を共有し、思い出の時間を作ることができ、子育てで苦勞する若い人たちの癒しの時間となる

多世代・障がいのあるひとなどとの交流から、多くの体験を得て子育てに希望や勇気を得ること。また手づくりで様々な子どもたちへの作品を提供する母親たちのグループとのつながりを持つことで子育てに夢を描くことが出来る流れの一つになるような内容。

2 事業の達成状況と今後の課題

子どもの良質な成育環境を保障し子ども・子育て家庭を社会全体で支援することを目標として開催したが、昨年以上の来場者（親子650人）で予想以上に広がりのある市民の参加を得ることができた

3世代の参加（祖父母・親・孫）・東京からコンサートを楽しみに帰省した人もいた

【終了後来場者からの聞き取りなど】

*多くの市民に支持されている。

*クリスマスに染まって楽しんだ。

*子供たち、親たちが子どもの傍でいい顔をして楽しんでいた。

*コンサートを求める人たちが大勢いて釧路は良い街だと感じた。

*広場の盛り上がりは昨年以上

*従事した人たちのぬくもりを感じた。

*「元気のない街」が力を引き出され可視化できた。

*家族で楽しい充実した時間の共有と・本格的なコンサートに触れることができた。

*親子で音楽を楽しむことで、子どもの情操教育ばかりか大人の癒しとなった

*毎年楽しみにしている

*駐車場が不足して、父親は送迎だけになった

*広場の開催時間を見直して、コンサートの前、終わった後にもひろばの利用をゆっくり楽しむことができた

釧路短大学生の学び

コンサートひろばを形作っている協力団体及び協力するスタッフとの交流から音楽だけにとどまらない互いの支え合いの場が実習では得られない貴重な機会になった。

コンサートを通して、子ども・子育て家庭・子育てを支援する人・地域で暮らす様々な人が、気軽に和やかに交わる機会に触れ、ベビーカーを移動するときの補助や、誘導に協力した。

**今後の課題

今年度は、幼稚園・保育園・小中高校・障がい支援施設・子育て支援センターに案内をしたが、今後時代に即した SNS での広報活用で、宣伝とともに、イメージしやすい、動画も載せてもよいのでは？との意見もあった

今後に向けて

日常的に人の成長のエネルギー源の情操教育として

地域の支持力・音楽教育の間口・学校教育以外の家庭教育のニースが極端に衰退・劣化していることをどのように考えていくか？発信することができるようにと考えている。

○2024年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書【報告会用】

団体名：釧路スタジオ実行委員会

事業名：釧路スタジオ コスプレロケーション開放

事業費：100,000円

輝くまちづくり交付金の交付金額：100,000円

1 事業目的と事業内容

本事業は市街地を主に、ポップカルチャーファンたちの「コスプレロケーション（撮影スポット）」を企画提供。主に全道各地からコスプレイヤーをはじめとする新たなターゲット層を呼び込み、市民と共に楽しみながら交流できる場を提供し、地域の観光や産業の活性化につながる新たな価値観のある聖地の造成を図る。

釧路スタジオが開放するコスプレロケーションで撮影できる企画。主に道内や市内のコスプレイヤーたちが自由に撮影。

また、プロコスプレイヤーを現地に招き、集まったコスプレイヤー達と、釧路の魅力を全国の仲間たちに SNS で発信。

○開放日時：2025年2月9日（日）11時00分～17時30分

○開放場所：釧路センチュリーキャッスルホテル9階
（チャペル内および展望電デッキ）

○参加料：入場無料

2 事業の達成状況と今後の課題

アマチュアコスプレイヤー、ポップカルチャーファン、一般市民などの参加を目標として設定。次年度以降に繋げる、広げる、コアターゲットの呼び込みに注力する。

新たな価値観の聖地化（撮影観光スポット）は無限。次年度以降は、釧路の強みである自然や動植物から、建造物、廃屋に至るまで、さまざまな分野の地域資源を活用する。

また、ターゲットが見出した地域資源は SNS を中心に、釧路スタジオとファンと自治体が協働で継続的に発展させながら、ブランド化することを期待している。

○2024年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書【報告会用】

団体名：くしろ元町フットパスを広め隊

事業名：地域住民が活躍するフットパス・ガイドシステムの構築

事業費：395,000 円

輝くまちづくり交付金の交付金額：300,000 円

1 事業目的と事業内容

地域住民自らの手で持続可能な地域を作っていくこと、その為に地域の福祉と経済（観光）を結びつけることである。その仕掛けとして地域の高齢者が自身の経験を生かして地域のガイドとして活躍することが出来るフットパス・ガイドシステムの構築を図ること、本事業はその為の実験事業である。

2 事業の達成状況と今後の課題

- ① 地元ガイドと観光客（長期滞在者含む）とをマッチングさせるためのシステム作り・・・2024 年度フットパス実施回数 12 回、延べ参加人数 156 人、（うち長期滞在者、観光客、移住者は、17 人）地元ガイド参加者延べ 7 人（別紙明細参照）で実証実験を実施した。
マッチングさせるためのシステム作りとしては、市民協働課からの広報、市民活動センターわっとからの紹介、又連携団体のグローバルみらいネット、凸凹旅行舎からの紹介を得た。大きな意味でのマッチングではあったが、個対個のマッチングとシステム作りは今後の課題として残った。
- ② 地元ガイド育成のための研修会・・・12 回のフットパスのうち 6 回は下見、事前学習含めた研修を自主的に行った。すなわち地域ガイドは、ほぼ素人のため、コース、ガイドポイント、話し方含め内部で検証し又参加者に渡すための資料作りも行った。研修会というより、自主的に、実践的に知識等深めていった。
- ③ フットパスマップの刷新・・・ガイドシステムに合わせ効率的なコースを策定し、参加者にトイレや、困ったときのお立ち寄り所など、名所、史跡に限らない情報を掲載した。（マップは、別添付）
- ④ ガイドシステムに合わせた道標の追加・・・設置個所、内容は別紙参照。
- ⑤ フットパスシールの刷新と地域提携所・・・シール、提携先は別紙参照。
特に釧路総合振興局観光課は、連携に前向きで、今後さらなる協力体制構築も視野に入れ取り組んでいく。地域の寺社仏閣、教会なども、協力を約束。
- ⑥ フットパスガイドシステムの実施・・・長期滞在者、観光客、移住者へのアンケート調査報告は、別紙参照。ガイドシステムの重要な柱であるガイド料金についての設問で、地元高齢者の未熟なガイドであっても「千円くらいが妥当」という回答は、今後のガイドシステムを構築していくための大きな成果であった。

○2024年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書【報告会用】

団体名：一般社団法人くしろまちづくり研究所

事業名：若者がまちを救う,元気はつらつ！関係人口「M0-S0 家族」釧路・阿寒・音別お宝プロジェクト

事業費：700,000 円

輝くまちづくり交付金の交付金額：200,000 円

1 事業目的と事業内容

□若者の参加促進：若者や大学生がイベントを企画・運営する事で、地域に愛着を持ち、地域活性化のキーパーソンの育成を目的とする。

□コミュニティの形成：キーパーソンの若者・学生を中心に住民・観光客・長期滞在者と交流しコミュニティを形成する機会を提案し、みんなが興味を持つ「人が主役」のイベントの実施

1、水辺のめぐみフェスティバル 若者がまちを救う！元気はつらつガンガン祭り

2、生産者とプロの職人と学生連携脱脂粉乳 PR

3、「M0-S0」家族946！獲得プロジェクト

2 事業の達成状況と今後の課題

当初和商市場、北大通りを中心としたイベントを考えていましたが、協力の承諾が取れず、会場をフィッシャーマンズワーフ M00 周辺に限定し実施しました。若者がまちを救う！元気はつらつガンガン祭りは、学生（釧路・札幌）が100名、マリモ提灯、千羽鶴作成には、障害を持った子ども達や、80代の高齢者、長期滞在者等総勢500名を超える皆さんが手伝ってくれました。大学生が司会をするなど、釧路市長・開発部長・振興局長と学生の街づくりトークセッション等実施することができました。又、脱脂粉乳消費拡大については、北大生とJA阿寒をつなぎ、食べる食器の開発中です。

今回の企画を通じて、若者・大学生の可能性や釧路の可能性を改めて感じる事ができました。釧路を訪れた学生から「挑戦するなら KUSHIRO」と言うキャッチコピーが生まれました。来年度、釧路市に大学生による新たな団体設立の動きもあります。札幌の中華職人・釧路のパン職人・音別のハンターによる、食のプロジェクトも企画中で、地元の食材を使った新たなメニュー作りにも取り組んでいます。北大生と「食べてぼっくり！な～んまら美味い！ホッケのフライ」プロジェクト企画中です。

○2024年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書(報告会用)

団体名:くしろ・まち・ガイド倶楽部 代表 大島 研志

事業名:地元くしろの魅力情報・集積・整理・共有・再認識・発信・人的ネットワーク構築促進・次世代継承事業

事業費: 1,300,000 円

輝くまちづくり交付金の交付金額: 50,000円

1. 事業目的と事業内容

「好き」であること「好きになる」ことは、上昇指向の基本です。

「まちづくり」の分野では、より多くの市民が、「LOVE くしろ」になれることが合致するかと思います。その「好きになること」を加速する上で、まちの魅力を主観的、客観的に認識し、認知度を深めることが重要と考えています。 知ることなく心寄するは盲目の恋。 識って心寄するは「愛」

一方、人間の性向として「隣の芝生」的発想、身内よりも、「よそ者・有名人」からの評価を重用する傾向があります。

その二つを合体させる手法を活用、釧路を訪れる方々(観光客)に釧路の魅力をアピールし、評価を高め、それが巡って、「市民が自ら居住するこの地への自己評価を高め、より多くの市民の方が、今度はそれを対外的にもアピールする」という好循環が出来ればと思っています。

また「観光」には、物事の本質＝「光」を「観」る(本質を悟る)意味があるとも考えています。我が街、くしろの日常空間には多様性があり、広く、深く楽しんで日常を観光する諸条件も揃っています。

対外的アピールの手法として、観光ガイドを、対内的アピールの手法として、市民向けの広報活動と、その基盤として、自らの力量を高めるため、釧路の魅力に関するデータの集積・整理・情報共有を進めます。また、次代への継承を意識し、学生層の当会への活動の関与の働きかけを進めます。

2. 事業に達成状況と今後の課題

(1)達成状況

○まちなか観光ガイド(4月～12月) 115回 951人

・4～9月までの長期滞在者2,256人のうち519人(23%)をご案内。

・旅慣れした70代で釧路再訪の方も多いが、現在案内しているまなぼつとの展望室を巡るコースは、ほとんどが初めて。釧路再訪・初に関わらず、皆さん「すばらしい景観」との感想を持ち、もっと広報した方が良いとのアドバイス。他「外国みたい」「文化の香るまち」「お金持ちのまち」「適度に都会的」などの嬉しいアンケート多数。(アンケート:別添資料参照)

・一回のガイドで終わりではなく、先への繋がりを意識してライン交換・名刺交換もしており、まだ一部であるが、継続したやり取りが出てきている。

○市民向け広報活動について

第33回釧路市生涯学習フェスティバル(11月9日)で「くしろの魅力に触れる(むかし・いま)」展開催

➡ 124人来場

○ガイドスタッフについて

・発足当初(2024年4月1日)8人➡現在 23人(先導的ガイド役は2人、後はサポーター的に拡充

・若い世代の関与の一環として、学生層のガイドサポーター勧誘。➡現在1名加入。

北海道教育大学釧路校地域文化教室との連携策、模索中。

・お客様からのガイド対応とそのスタイルについての評価は極めて高い。

・「ガイドらしくないところがいい」➡全国的にPRした方が良い <大手旅行会社 OB>

・釧路の歴史や全体像も分かった。

・時間(60～90分)とコース・距離が丁度よい等々

(2)課題

○現在、旅行会社からプリンスホテル経由でのツアー参加者がガイド対象になっているが、個別の長期滞在者へのガイドの働きかけを含め、より多くの方のガイドへの勧誘。

○プリンスホテル経由から他のホテル経由での参加者拡大➡そのための受け入れ体制の拡充

○現在プリンスホテルから釧路川河畔➡幣舞橋➡出世坂➡まなぼつとの1コースのみであるが、長期滞在者を視野に市内の多様なコースの案内。

○市民向けの「釧路の魅力を伝える講座等」の設定

○2024年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書【報告会用】

団体名： NPO 法人くしろ・わっと 理事長 小林 友幸

事業名： 住・観・滞！釧路(まち)を感じる企画事業

事業費： 19万円

輝くまちづくり交付金の交付金額：10万円

1 事業目的と事業内容

釧路市民、観光客、長期滞在者問わず参加できる企画の実施を通し幅広い層に釧路の魅力を知ってもらう内容の事業を企画し、市民にとっても、観光客にとっても、長期滞在者にとっても、3者すべてにとって魅力的なまちづくりへと寄与する事業を企画する。

具体的には・釧路市民・出身者を中心とした地域関係者を講師とした講座、講演会の企画実施、・釧路市総合政策部世界自然遺産推進室員、若菜勇氏による「阿寒湖・マリモ」を話題とする茶話会「マリモ茶話会」実施・アイヌ文化やマリモを含めた阿寒湖地域を体験するバスツアーを企画する。

2 事業の達成状況と今後の課題

本来事業計画予定であった貸自転車を利用したスタンプラリー事業は中止とした、気象庁職員の知識を生かし石川啄木の来釧の大雪に触れながら災害への知識を学べる「社会教育士が教える知って得する防災豆知識」、釧路市動物園で行っている負傷したタンチョウの保護活動「タンチョウ・レスキューの現場から」などの講演会、少人数でマリモについて学べる「マリモ茶話会」、阿寒湖地域の文化、自然環境を学習できる「マリモ博士と行く阿寒湖ハリキキバスツアー」など計200名の参加者が深く釧路を感じる事業を行った。

長期滞在者・観光客、市民は今までより一歩深く釧路を感じる機会を探している、参加者アンケートを回収し、分析しより洗練された事業内容にし、事業化につなげられるよう工夫する。

○2024年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書【報告会用】

団体名：釧路バンディ協会

事業名：氷都くしろ！巨大屋外スケートリンク設営事業

事業費：85円

輝くまちづくり交付金の交付金額：10万円

1 事業目的と事業内容

目的

- ・冬に活用されていない土地を活用したスケートリンク設営
- ・子供や地域住民の冬の遊び場として一般開放、イベントの実施によりスケート競技の活発化に繋げる。

内容

- ・2024年11月～2025年3月下旬にて屋外スケートリンク設営・運営を実施。
(釧路市民サッカー場)
- ・設営したスケートリンクを一般開放し、冬の遊び場設置。
- ・設営スケートリンクでのイベント実施を4～5回実施。
(小学生向け、大人向けと分けたイベントの実施)
- ・シルバー人材を活用した屋外スケートリンクの設営

2 事業の達成状況と今後の課題

1月中旬～下旬に完成予定だったが、暖かい気温が続き4週間程度予定が遅れ、2/16～19頃に完成目途が立っている状況。シルバー人材の活用については、費用面、軽作業では無い事から断念し有償ボランティアスタッフを募集する流れにシフトした。

イベントについて

●1/25 946 スケートフェスの開催

(柳町スケートリンク/KKS 釧路厚生社アイスアリーナ)

バンディだけでなくスケート競技全体の活発化を目的とし、実行委員会を立ち上げた。
フェス内でバンディを含めた4競技の体験、見学が出来る場を設けた。

柳町フェスとの共催とする事でたくさんの方に来場頂けた。(来場者延べ1100人)

●1/26 釧路バンディ協会主催のバンディ体験会を開催(釧路アイスアリーナ)

天候都合により急遽屋内リンクにて実施へ切替。

●2/1～2、日本バンディ連盟主催の講習会、バンディ体験を開催(釧路アイスアリーナ)

天候都合により急遽屋内リンクにて実施へ切替。

実現出来た事として、資金について氷都くしろを盛り上げるという目的のもと、946 スケートフェス実行委員会を立ち上げ、フェスの開催が実現。

企業からのフェスへの協賛金を集め、そこで集まった協賛金の一部をリンク設営事業や

スケート競技全体の普及活動に分配できる形を構築できた。

これにより、スケート競技全体の活発化に繋がる活動を実現できている。

フェスの公式 LINE や SNS も活用し、巨大スケートリンクの認知も広めていく。

本題のスケートリンク設営事業については天候の他、課題が残っている状況。

【課題】

- ・ 人員確保：有償ボランティアを募ったものの、確保できた人員が 10 名未満であった。
散水に適した日に作業できる人員が確保できない日もあった為、さらなる人員確保が課題。
- ・ 水源の確保：設営をしている釧路市民サッカー場付近には散水栓がなく、陸上競技場にて給水をしており、近くに散水栓があれば、作業効率も向上する。
- ・ 立地の再選定：水源確保の他、地面が土よりアスファルトの方が溶けにくい、すぐそばにトイレがない等の課題もある。

リンク設営が今シーズンで 3 シーズン目を迎え、ノウハウの蓄積は出来たものの、上記のような課題は来シーズン以降も継続課題。

○2024年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書【報告会用】

団体名：釧路市立朝陽小学校 PTA 事務局長 岡田 康敬

事業名：朝陽フェスティバル

事業費：295,063 円

輝くまちづくり交付金の交付金額：10万円

1 事業目的と事業内容

警察、消防にも参加してもらうことにより、地域住民との繋がりや近隣の幼稚園や小中学校生徒との交流を深めて、住みやすく安全な地域にする。

朝陽小学校敷地内において、近隣小中学校、未就学児、近隣住民を対象に、フェスティバルを行った。近隣小中学校金管同好会演奏、桜ヶ岡児童センターバトンクラブ演技、ヒートボイスミニライブ（金管同好会とコラボ有り）

【職業体験】消防（放水体験、消防服着用体験）警察（パトカー試乗体験他）

【縁日】フワフワドーム、ヨーヨーすくい、スマートボールすくい他

【飲食】キッチンカー8台、PTA 屋台

（焼きそば、焼き鳥、ポップコーン、わたあめ、飲み物）

【他】フリーマーケット、ビンゴゲーム

2 事業の達成状況と今後の課題

朝陽小体育館に、新たにフリーマーケットを誘致し、市内各地や朝陽小保護者から30人ほどの出店があった。来場者は、学校近隣はもとより、市内各所から、約1200人程であった。朝陽小・東雲小・桜が丘中が令和10年から義務教育学校として統合していくことについても紹介し、地域・市民に周知する機会となり、今後の学校や地域の在り方を考えるきっかけとなった。

波及効果としては、他地域の小中PTAから、運営への問い合わせや、当日のイベントの見学希望などがあった。本フェスのスタイルを取り入れたイベントが、他地域（鳥取西地区や昭和地区など）でも、みられるようになり、学校を核とした新たな地域交流がなされるようになった。

来年度事業を実施するに当たり、参加者を更に増やすため、新聞報道を依頼したり、既存の学校メールやHPの活用やSNSを利用したりしながらイベント周知を行う。

○2024年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書【報告会用】

団体名：くしろ椎名豊ジャズクラブ 事務局長 高尾 学

事業名：釧路ジュニアジャズオーケストラwith 椎名豊カテットinパシフィックジャズコンサート2024

事業費：1,423,102円

輝くまちづくり交付金の交付金額：100,000円

1 事業目的と事業内容

【事業目的】

本コンサートに参加する中高生の音楽の資質向上はもとより、事業運営に携わるOB・OGが事業運営を通じて街づくりの中核を担う人材へ成長していくことを目的としております。

【事業内容】

プロのジャズピアニストである椎名豊氏及び関係するジャズ奏者3名と吹奏楽部に所属する中高生とのジョイントコンサートを2024年9月22日に開催いたしました。

そのコンサートに向け、事前のワークショップを行ってプロの技術を直接学んだり、コンサートに向けての心構えをしっかりと身につけた上でコンサートに臨んでおります。

2 事業の達成状況と今後の課題

1999年より始まった本事業は、今年で24回目を迎えることとなり、認知度も徐々に向上してきて今年の会場は例年よりも多くの観客に会場いただきました。

その中であって、参加した中高生102名は事前のワークショップを経て、プロの技術に直接接したり、コンサートに向けての心構えを教わったりして当日を迎え、それまでの練習の成果を遺憾なく発揮し、大成功で終了いたしました。

また、本事業の運営にはさまざまな年齢層のOB・OGが携わっており、単にコンサートを成功させるためではなく、音楽を通じて釧路市の活性化に寄与しようという意思を持って運営に携わるなど、将来釧路市の街づくりの中核を担う人材として着々と成長していると感じております。

今後の課題としては、本事業を継続的に行うにあたっては安定的な収入源の確保が何より大切であり、釧路市の輝くまちづくり交付金のさらなる増額を希望するとともに、自主努力として今年度以上の広告収入をはじめとした収入の確保に努めていきたいと考えております。

○2024年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書【報告会用】

団体名：くしろ子育て応援フェスティバル実行委員会

事業名：くしろ子育て応援フェスティバル 2024

事業費：525,000 円

輝くまちづくり交付金の交付金額：300,000 円

1 事業目的と事業内容

子どもが使わなくなった洋服やおもちゃなどの交換を通じて、子育てにかかるコストを抑えられるとともに、親同士の交流にもつながるイベント「おさがり交換会」をより多くの方に参加いただけるイベントとして「くしろ子育て応援フェスティバル実行委員会」を結成。これまでに2回開催してきました。今年は釧路市の交付金事業を活用し、より行政との連携を強化し、多くの釧路市民・子育て世帯の方に参加いただき、地域内で助け合いながら子育てができる繋がりづくりを目的とした事業。

日時／2024年11月4日（月）10：00～15：00

場所／ウィンドヒルくしろスーパーアリーナ

内容／おさがり交換会をメインとし、釧路で子育てに関わる団体、企業にもご協力いただき、親子で楽しめる企画を盛り込み、子育てフェスティバルを開催。釧路短期大学の学生による子どもの遊び広場や釧路市環境事業課、環境保全課による出展、子どもの職業体験、企業ブースの出展など盛り込んだ。

2 事業の達成状況と今後の課題

今年度は、釧路市輝くまちづくり交付金事業に採択され、東北海道スポーツコミュニケーション様との共催、釧路市からの人員応援や、こども育成課の協力体制のおかげで今までにない形で開催ができた。

子育てフェスのメイン「Haport おさがり広場」今年も満員御礼でした！イベントの参加者数は最終的に約2,000人と予想以上で混乱もありました。

課題…

実行委員会は、子育て中のボランティアママスタッフさんのサポートで成り立っています。今回のスタッフは、乳飲み子を抱えたママが多数でした。子育てや仕事の合間に準備をしてきました。年々、お仕事をしているママが多くなっていますので、サポートスタッフも足りないのが現状です。子育てが落ち着いた方やシニア層の居場所づくり・社会活動のひとつとして子育てフェスが釧路市の多世代交流・共助イベントとして継続していけるように努めます。

〇2024年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書【報告会用】

団体名：一般社団法人 エシカルプラス

事業名：災害対策トレーニング in 釧路～2024 能登半島地震の教訓を得て～

事業費：35万円

輝くまちづくり交付金の交付金額：30万円

1 事業目的と事業内容

【目的】千島海溝巨大地震及び太平洋海水温上昇による豪雨等災害のリスクが高い中、「能登半島地震」の教訓から得た先手の対策と住民自ら考え、意思決定し行動できるスキルと基礎知識の習得をする。2023 年度実施した同事業の具現化（課題解決の実践）複合的被害に対する自助・共助の対策強化

【事業内容】

1. 住民主体の避難所運営に必要な情報トリージ法の習得と情報伝達アイテムの作成、演習。

2. 女性視点の避難所運営演習 能登半島地震の現地調査をもとに、釧路市で想定される複合的災害への対処法を女性視点で実践する方法を学ぶ。

3. インクルーシブな対策、要配慮者をファシリテーターとし、災害時におけるリスクコミュニケーションを確認し、マニュアル等の検討と周囲への理解促進法をディスカッションする。

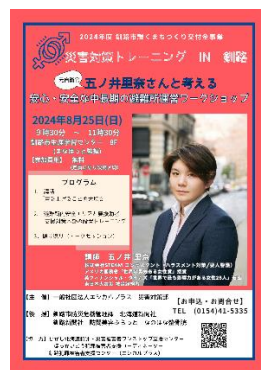
【人材育成プログラム】

1. 小・中学生、保護者等を対象に、体験学習等を開催

キャリア教育&防災教育 災害関連職業を体験 災害対策士を体験しよう！

災害対策を学ぼう！など

2 事業の達成状況と今後の課題



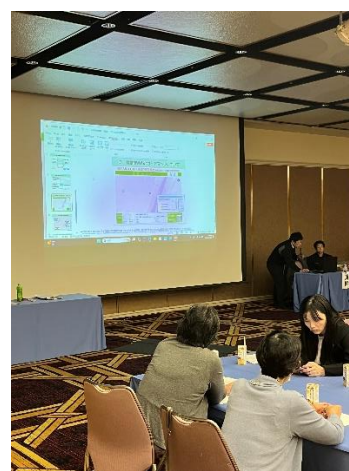
インクルーシブ・要配慮者への避難所における対応と情報伝達オペレーションを実践。災害対策基礎概論の講義と五ノ井里奈氏の講演後に、演習を実施。10代から70代までの（女性8割）多様な参加者（30名）が集まり、市民による災害対策の実働性が向上した。また、知名度の高い五ノ井氏にオファーしたことで、各新聞メディア他、NHKの全道版ニュースや密着取材に取り上げられ本事業を釧路市内にとどまらず、道内エリアに広く周知できた。また、YouTube他SNSでの動画配信をした事で、若い世代へもアプローチができた。



【人材育成プログラム】

中央小学校、地域学校協働活動推進員の協力を得て、4年生と6年生合同の災害対策トレーニングを実施した。4年生は防災教育、6年生はキャリア教育の授業を組み合わせ、4年生は避難所運営、6年生は、DMAT、DWAT、レスキュー、TEC-FORCE、EOCと各職種の役割分担をして地震と津波を想定した実際のトレーニングを行った。

実施後、子供たちから活発な意見がでたこと、自分たちが行動するという認識が高まった内容だった。学校教育の一環として、レギュラーで取り入れたいと感じたトレーニングだった。



【女性の為の災害対策トレーニング～search&rescue～】

市民トリアージ、市民による傷病者レスキュー、情報トリアージと伝達、をトレーニング。女性にもできる救助法と防災講話を市防災危機管理課職員より教示を受け、傷病者役とリーダー、参謀、レスキュー役に分かれ、トレーニングを実施した。

以上のトレーニング実施の結果とアンケート、参加者ディスカッションから、マニュアルや表示物の完成に向けて検討材料をピックアップし、作成に取り組んだ。

【今後の課題】

- ・多くの参加者から災害対策トレーニング定期実施の希望があったので、事業化に向けて検討・計画をする。
- ・行政との連携について、各課によって災害対策に対して温度差が明確にあるため、幹部への周知と市民と協働で災害対策を実行できる仕組み作りが必要。

○2024年度輝くまちづくり交付金事業実績報告書【報告会用】

団体名：特定非営利活動法人 和

事業名：ノスタルジック946 ～釧路懐かし写真館 2nd action～

事業費：201,277

輝くまちづくり交付金の交付金額：188,447

1 事業目的と事業内容

【事業目的】

釧路の歴史を知ってもらう。特に若い世代、移住者、観光客などに釧路の新旧の歴史を知ってもらうことで、地元・故郷釧路を好きになってもらい、釧路の良さ、今後の課題について考え取り組んでもらうことで、地域経済の活性化にもつなげていけるのではないかと考えている。

【事業内容】

ノスタルジック・キッズワークショップ

市内の小学校に通う6年生、4～8名程度を対象に、小学校が夏休みの7月下旬～8月のどこかで、釧路の歴史をテーマにした1日ワークショップを開催。

2 事業の達成状況と今後の課題

当初3組8名の予定だったが、前日に2組（友人同士）がコロナとなり、1組3名＋保護者2名に変更。

延期も考慮したが、レンタカーの手配等キャンセルできず、8月22日に開催。講師に小山田様を招き、勉強会＋地域見学を行った。

楽しみながら地域について知ってもらうというテーマは達成できたが、参加人数が少なかったなので、次回に繋げていきたい。

① 勉強会

石川啄木についての勉強会を行った。参加した子どもたちは、名前は知っているがどんなことをした人なのかを知らず、熱心に講師の話を聞いていた。

② 地域見学

地域にある石川啄木の石碑巡りを行った。

港文館では啄木の石像の前に歴史の説明をし、本行寺でふるさとかるたを行った。